

# 労農全國組合會議に關する聲明書

資本の反動的攻撃は益々激甚を露骨に加へ、一方には無産階級の階級に對して徹底的に襲撃し、日常の經濟闘争の遂行に際しては、支配階級の有する一切の勢力を動員してその襲撃を破壊せしめ、他方には種々の空虚な社會政策施設によつて勞働大衆を欺し、以て無産階級の階級を抑壓し、ある。

斯やうに資本の反動的攻撃と同時に、失業が續出し、生活の貧困化と不安は極度に増大し、無産階級の現在の生活は自ら維持することすら、その困難を加へて來た。

吾が無産階級が現實に直面しつゝある、(一)資本の反動的攻撃に抵抗するの道は、實に無産階級の有する分散し孤立せる一切の勢力を結合し動員して戰鬥力の集中を圖り、抗争することである。

(二)この無産階級の奮闘する要から、労農組合の地方會議又は無産階級會議が成立し發達した。このことは現實主義を固守し、農民組合を地主階級の擄取の祭壇に捧げた、日本農民同盟、日本農民黨一派の裏切者等の高唱せる勞働者農民の共同戦線が不可能であり、不徹底であるといふタガ言を更切つて、現實に於て勞働者農民の共

同戦線が可能な限りでなく、實に兩者の結合を圖るべき條件が既に存在してあることを示すものである。そしてその必要によつて、現勢に成立せしめて居るものなのである。然るに資本の攻撃に對抗し、奮闘するために抗争することは、個々の地方に必要はかりでなく、全國的に必要であり緊急である。そしてそれは實に、勞働者農民大衆の現實の利害をも代表して闘争するため全國的共同戦線たる組合會議の結成に最善の努力を盡すことは、闘争團體たる全勞農階級の最大の義務であることを示すのである。

然るに六月廿日大阪中央公會堂に於て開催された「全國組合會議結成準備會」が、不幸にして結成準備の一機關として設置し得ず、取に今迄の努力を申合せたのみで解散するに至つたことをわれ等は遺憾とするものである。

當日所謂「現實主義」を奉ずる總同盟代表者は種々數言を發表し、結局、その成立が時期早向であるといふことに依つて、この會議の成立を極力妨害したのである。もとより我が國で最も鮮明な戰線的戦線を掲ぐる總同盟代表者は、社會的情勢の示す資本の攻

勢に對して奮闘であるといふはなかつた！總同盟代表者も亦、資本の攻撃に對して無産階級の共同戦線が必要であることを少くも口先のみでは承認したのであつた。けれども彼等はその實行に當つては時機尚早と稱して反對したのである。この實行に際して尙早を唱へ、(一)は、資本の反動的攻撃に對しては、何事も成さぬ、また成すことを欲せぬことである。即ち總同盟代表者は全く勞働大衆の現實の要求に對して無關心であり他人である。正に階級闘争の立場を放棄して資本の階級により「一步「前進」したものである。彼等は茲に完全に彼等自らの階級的義務を離棄し、聲明したものである。

組合會議成立尙早論者たる總同盟代表者は、また更に云ひ、資本の攻撃に對抗し得べき組合會議は鞏固な組織と有力な活動をなす組合會議でなければならぬ。しかるに現在成立させ得る程度のものには單に聯絡補助をなす位のものであつて、強力なる組織を有する會議の成立は不可能である。そしてかかる程度のものには全然必要である。此處に至つて、現實主義を奉ずる總同盟代表者は組合會議の成立當初と、相當の發展段階に達したものとを混同し、その處境を異なるを以て、成立の不必要を主張するに至つた。

の忠懐たることを表した。吾が國の如き分散し孤立せる多數の組合が存在する場合には直に一線整理されて強固な組織となり得るものと考へることは、畢竟空想論者のみ認めうることである。勞働運動に多少の關心を有するものならば組合會議それ自身の發達過程とその努力を認め準備すべきである。然るに「現實主義」が常に現實に適應した政策や方針なるかの如く思惟する總同盟代表者が、主張を叫ぶに至つて、實に現實主義に感服した空想論者、觀念論者以外ならぬことを囁言したものである。

斯くて組合會議成立を妨害、破壊した總同盟代表者等は、戰線的勞働組合の假面の下に、資本家及地主並に政府の忠實なる代理人として現れ、彼等の目的は無産階級の階級を抑止し、妨害し、攪亂し、無産階級をブルジョアの階級に賣渡せんとする陰謀であつたのである！

最近種々の新聞は「現實主義」を奉ずる所謂右翼團體の總聯合成立計劃のあることを傳へつゝある。若し之が眞實たるならば、六月廿日の全國組合會議成立妨害が如何なる意圖によつて成されたかを事實に於て認するものである。何れ全國の有力なる勞働階級の参加せる組合會議の成立は、右翼團體の企圖を全く瓦解に